

実務研修会を終えて

教育情報担当常務理事 成田 俊郎

平成26年10月1日、長岡グランドホテルにおいて、新潟県税理士協同組合主催の実務研修会を開催いたしました。研修会は、「相続が争族にならないための民法の基礎知識」をテーマとし、黒澤升村法律会計事務所所属の弁護士小林正樹様、弁護士伊崎健太郎様に講師を務めていただきました。

会員・職員の皆様におかれましては、他の研修会も多く開催され、お忙しい10月ではありましたが、327名もの多数のお申込みをいただき、誠にありがとうございました。

また、今回も当研修会開催にあたり、(財)中小企業災害補償共済福祉財団（あんしん財団）様の協賛をいただき、会の冒頭に、業務推進部税協担当部長 田瀬文夫様よりご挨拶を頂戴いたしました。

今回の研修は、まず伊崎健太郎先生より相続に関する民法の基礎的なところを解説していただき、その後小林正樹先生より具体的な案件を示して税理士が依頼者から損害賠償請求を受ける場合などを説明していただきました。小林先生はその経歴に判事としてご活躍された時期もあり、裁判官の視点からの解説は大変参考にな



りました。

「裁判官はまじめで自分に厳しい、そのため他のプロ（税理士等）に対しても厳しい判断を下す傾向がある。ひとたび裁判になると自分の運命を裁判官に委ねることとなる。また相続案件は損害賠償額が高額になる場合が多い。よって極力裁判にならないようにすることが肝要。そのためには相手方が裁判を断念するだけの証拠をそろえておくこと。例えばリスクの説明をしたこと、依頼者自らが選択をしたことなどをメールやファクスで証拠化しておくことが大事である。」など、私の記憶にあるところです。

今回の研修を終えて、受講された皆様は更に自信を深め、日々の業務に益々お力を発揮されるものと思っております。今後も新潟県税理士協同組合の教育・情報事業の一環としてこのような実務研修会を企画・開催していきたいと思っております。皆様の一層のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



糸魚川地域の業務推進会議 開催

糸魚川地域長 秋山 澄雄

第29回全税共VIP・年金全国统一キャンペーンが実施されることを受けて9月3日糸魚川駅前の「膳処くろひめ会館」において午後5時45分より業務推進会議を開催いたしました。

前年までの業務推進会議は、糸魚川税務署の会議室をお借りして支部例会前に開催し、会議だけで終了しておりました。今年は、地域運営費を大幅に増額していただいたため、ほぼ10年ぶりに会議終了後に懇親会を行うこととなりました。

会議には、朝日生命様・第一生命様・日本生命様・明治安田生命様・大同生命様・オリックス自動車様より11名の参加を賜りました。新潟県税理士協同組合からは片山理事長に出席して頂き、糸魚川地域の組合員7名の総勢19名で実施されました。

会議は、片山理事長の挨拶で始まり、各保険会社様の決意表明など1社当り6分ほどの持ち時間で順調に進行いたしました。

その後、懇親会に移り、山岸糸魚川支部長の乾杯で始まりました。お酒と魚料理など糸魚川の美味しさも加わり、また提携企業様よりお褒めのお言葉を頂くなどあっという間に交流時間が過ぎてしまい懇親会は終了致しました。

各社との情報交換も順調に行われ、有意義な会議となりましたのも片山理事長の存在が大きいと思えました。

来年も是非、片山理事長にお越しいただきたいと感じました。



北海道味めぐり

長岡支部 鈴木 和彦

6月30日から7月2日までの3日間、図らずも北海道へ行くこととなった。関東信越税協連共済会主催による表彰旅行である。長岡支部からは私を含めて4名の参加で、今やこの旅行の常連となりつつある井筒先生の運転で新潟空港へと向かう。

新潟空港には既に県内の参加者10名と大同生命の方々が到着しており、程なく宴会前半のキックオフとなった。以前から話には聞いてい

たが、聞きしに勝る接待ぶりで、前半30分過ぎには口の動きが止まってしまった。もう満腹でこれ以上飲めない。

気がつくともう新千歳空港に到着である。空港から手配されたバスに乗り約1時間で今日宿泊するホテルモントレエーデルホフ札幌に到着した。部屋に荷物を置き今度は場外市場へ出かけた。県税協片山理事長の案内で毎年訪れる食堂に入った。ここでまたもや宴会が始まり、宴

会後半のキックオフと相成った。ホッケやウニ井をはじめ美味しい魚介類を食べながらビールを飲んだ。ホテルに戻り6時30分から始まる夕食に備えて少し眠った。時間となり夕食会場に行くと、既に他県の参加者も集まっていた。新潟からの参加者にとってはメインの食事というよりも宴会の延長戦のようである。にぎやかに宴会が始まったものの、テーブルに出された料理に箸が進まず、時折ビールを口にする程度で新潟県参加者のテーブルは静かである。予定していた味噌ラーメンは明日食べることにしよう。宴会を終え部屋に戻り翌日のゴルフに備える。いろいろあった6月も今日でおしまいである。明日はホテル出発午前6時30分。

7月1日晴れ。今日は恵庭カントリー倶楽部でのゴルフである。古川先生と井筒先生と私の3人で廻ったが、プレーのことはほとんど思い出せない。スコアはいつも通りでよくなかったと思う。一つだけ「恵庭岳はどこですか」とキャディさんに質問したことを思い出した。恵庭岳は札幌オリンピックの滑降競技の会場であり、選手が支笏湖に向かってジャンプしていくテレビの映像を今でも覚えている。プレー後の昼食は弁当だったので、ジンギスカンはお預けとなる。ホテルに戻り夕食までの間眠った。今日の宴会はカニ尽くしの料理である。猪俣関税協理事長の挨拶を皮切りに宴会が和やかに進み、次々と料理が出てくる。中締めの際になりテーブルを見渡すと新潟からの参加者の席がぼつぼつと空いている。途中でどこかへ行ったらしい。宴会を終えてラーメン横丁に向かった。目当ては20年ほど前に行ったことのある「ひぐま」という店である。過去の記憶をたどり建物に入ったが、その店がない。入口に戻ってよく

見ると「ラーメン横丁」ではなく、「新ラーメン横丁」であった。近くの交番で道を尋ねてようやくラーメン横丁に到着した。入口には「新ラーメン横丁とは何の関係もございません」という張り紙が貼ってあった。ずっと中に入っていくと客の入っている店もあれば、ガラガラの店もある。何軒か通り過ぎて「ひぐま」を見つけた。店には既に先客がいて満席に近い状態であった。しばらく空くのを待って席に着く。先客はすべて東南アジアの観光客である。しかも皆若い。昔来た時の客はほとんど日本人だったと思うが隔世の感である。皆礼儀正しく勘定をしているのが印象に残った。味噌ラーメンを注文し待つこと15分、以前食べた時の印象とはかなり違って、少しがっかりした。ラーメンが変わったのか、自分の舌が変わったのか、はたまた両方変わったか？

7月2日最終日、ホテル6時00分出発。今日は御前水ゴルフ倶楽部でのプレーである。塩崎先生、吉田先生、井筒先生と廻った。ラウンドの途中のことは前日同様ほとんど覚えていないが、ニアピン賞を1つもらった。ゴルフを終えての昼食で、昨日お預けとなったジンギスカン定食を注文し、旅の食事の締めくくりとした。御馳走様でした。合掌。



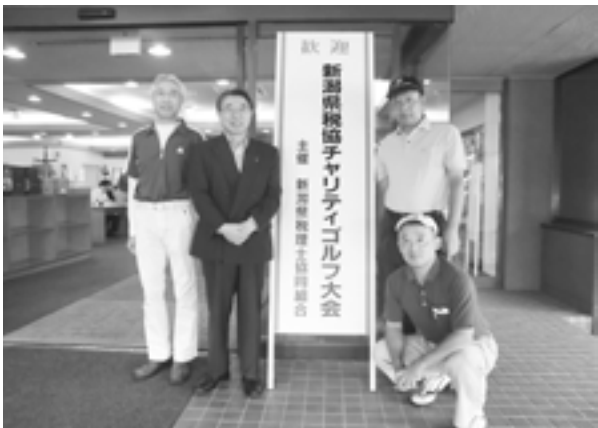
新潟県税協チャリティーゴルフ大会開催

常務理事 笠輪 浩

平成26年9月2日、新潟県税理士協同組合チャリティーゴルフ大会が長岡カントリー倶楽部にて盛大に開催されました。

当日は心配された天気も見事に晴れ、言い訳の出来ない絶好のゴルフ日和となりました。

このゴルフ大会は、組合員・賛助会員の親睦はもとより、日頃ご協力を頂いている生命保険会社の皆様からも参加を頂いており、互いに親睦を深める絶好の場となったことと確信しております。そして生命保険会社各社から多数の賞品を協賛して頂き、表彰式も賑やかに楽しく行う事が出来ました事、厚く御礼申し上げます。



また、皆様からご協力頂いたチャリティー義援金は、翌日片山理事長と小林副理事長が新潟日報社に出向き、日報社を通じて新潟県社会福祉協議会に寄付致しましたことをご報告申し上げます。ご協力大変有難うございました。

来年もまた大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

尚、成績は次の通りです。

(一般の部)

優勝 神林 範雄 (長岡)

準優勝 渡部 正 (新潟)

第3位 白井 光則 (長岡)

(シニアの部)

優勝 佐久間茂治 (新津)

準優勝 佐野 榮偉 (巻)

第3位 山内 亮治 (小千谷)

(バスグロ) 田井 康孝 (長岡)

おめでとうございます！

新潟県税協チャリティーゴルフ大会に参加して

長岡地域 神林 範雄

平成26年9月2日(火)晴天の下、長岡カントリークラブに於いて、「新潟県税協チャリティーゴルフ大会」に参加した。

天気は「快晴」、「腕？」は二の次でいざ出陣。

南コースよりスタート、1番ホールは「トリプルボギー」いつもの出だしどおり、まあ、しよ

うがないか。2番ホールも「トリプルボギー」これもしょうがないか、等々言っているうちに前半最後の9番ホールで痛恨の「OB」。これで上がってみればなんといつもどおりの？「53」ストローク、これじゃ優勝なんて「夢の」「また夢」午後に期待？をするかと昼に入る。

ここで優勝を狙う方々は、昼は節制をして午後のコースの戦略を練るところであろうが、楽観的な私は、そんなことは二の次、美味しく昼をいただき美味しく生ビールを飲み、午後のスタート時間を待っている状況であるから、とても優勝などとは「おこがましく」で言える話ではない。

ところが、神様は冗談がお好きなようだ。表彰式の時、優勝者に自分の名前を呼ばれた時、一瞬誰のことかと思った。優勝しておいて、こんなことを言うと失礼に当たるが、テレビ等で優勝する人は、素晴らしい成績（アンダーパー）で優勝しているわけなのに、私の場合は「108ストローク」という素晴らしい？成績にも関わらず優勝という結果になってしまった。

通常であれば嬉しいことなのであろうが、ペリアの妙というものがそういう世界を作り出しているのだと、つくづく感じ、数字がそういう結果を出してくるのだと、ここは納得？するしかないのかと自分を説得した。

ある人は言います、不幸（幸せ？）は突然にやってくると。

家に帰って、かみさんに「優勝」したと言ったら「誰が？」やはり予想した通りの答えが返ってきた。

ただ違った事は、「あんたホールインワンをした訳でないから良かったじゃない？」と。

ゴルフの世界は、今さら言うまでもないが、ホールインワンをしたらとても大変？な事になってしまうことを、妻は友達から聞いており私を慰めてくれたものと思う。

それにしても、過去に於いて「新潟県連ゴル

フ大会」で、HDCPが最高の「40」が付いた人の優勝を見たことがあったが、今回の私のHDCP「36.8」は、負けず劣らずの成績？であろうか？

私には、ゴルフに関して「優勝」など縁のないことであり、先ほども述べたが、まさに「不幸（幸せ？）は突然やってくる」のとおり毎回他人が優勝すると皆上手く優勝の弁をするなあと思っていたが、さて自分に優勝の弁を振られると殆んどなにを言っているのか分からないのが事実だった。

最後に、新潟県税協の担当の皆さんにおかれましては設営御苦労さまでした。楽しく参加させていただきありがとうございました。

本当に神様は冗談が好きだ。（独り言）

